

いわた

文化財だより 第119号

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成27年2月1日発行

目次

- 文化財課企画展 『建てる・住む・生きる～磐田の建物～』 P1～2
- ふるさとの信仰（6）役行者・・・・・・・・・・ P3
- 津倉家住宅見学会開催のお知らせ・・・・・・・・ P4
- コラム 「掛塚湊への郷愁はいつまでも」
佐藤 喜好・・・・・・・・ P4

文化財課冬の企画展を開催します

建てる・住む・生きる
～磐田の建物～



平成27年2月14日(土)～3月1日(日)

■開館時間…9：30～17：30

■休館日……月曜日

入場無料

■会場……………豊田図書館展示室
(磐田市上新屋304)



建てる

建物を建てるには、さまざまな工程があります。まず図面が作られ、土地の造成、基礎工事、棟上げ、外壁・瓦葺き、内装など、それぞれの専門分野の職人が持っている技術を発揮していきます。

今回の展示では、古代寺院の基礎である礎石や東日本最古（鎌倉時代）の大工道具セット、建築に係る記録等を墨書した棟札などをご紹介します。

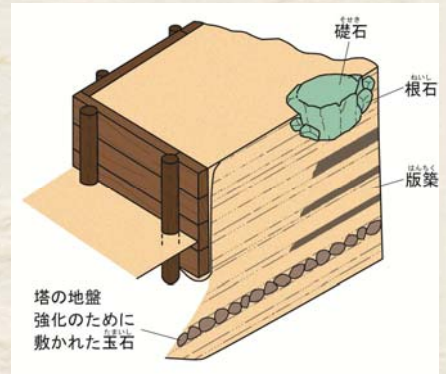
また、現在大規模な修復工事が行われている、府八幡宮楼門（県指定文化財・中泉）と淡海国玉神社本殿（市指定文化財・見付）の工事の様子もご紹介します。



府八幡宮楼門の修復工事の様子



(伝) 大宝院廃寺遺跡の礎石
(柱部分は模型)



地盤改良工事の様子
(遠江国分寺・塔跡)



(展示品の流通は時期にズレがありますが、当時の生活をイメージしたものです)

住む

昭和30年代の男子に多く付けられた「ヒロシ君」の名前を借りて、子ども時代のヒロシ君の家の中、特に家族が集う「お茶の間」を再現してみました。畳の間の中央にはちゃぶ台があり、ご飯を入れたおひつが横に置かれています。

生きる

「生きる」にはさまざまな意味があります。建物に住んで生きていく、建物が役割を変えて生かされる、指定や登録を通じて文化財が後世に生き続ける、という意味もあります。

今なお残る建物には、偶然残されたものもありますが、地域や所有者の強い思いや信念によって残してきたものもあります。ここでは、市内に文化財として残る建物を、パネルでご紹介します。



磐田農業高校
記念館



玄妙寺経蔵

旧中泉御殿表門

私たちにとって、住み、使い、生きていく大切な場所である建物。遺跡から見つかる建物、指定され保護されている建物など、文化財の視点からご紹介します。



第6回

役行者(えんのぎょうじゃ)

日本には本来の宗教とは別に、民衆の間で生まれ育っていった神仏があります。磐田市のこうした「民間信仰」、最終回の今回は役行者です。



役行者は役小角^{えんのおづめ}という平安時代の実在の人物ですが、数々の奇跡を起こし、修験道を大成したと言われています。そのため、修験道を極めようとする、山伏^{やまぶし}と呼ばれる人たちの中では神変大菩薩^{じんべんたいぼさつ}と呼ばれて敬われています。



役行者像(見付)



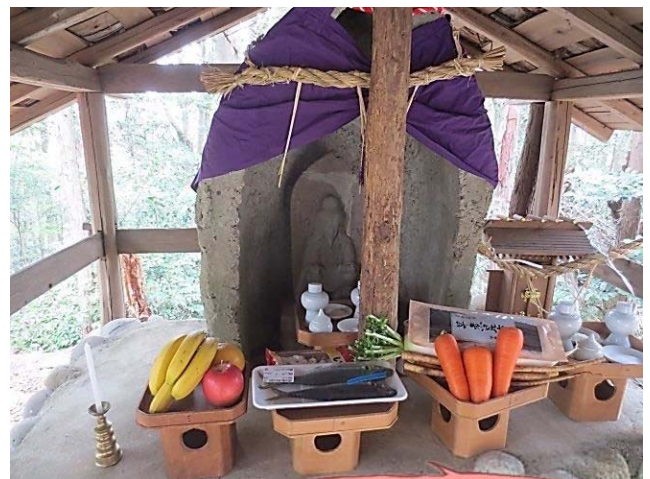
行者神社(新貝)

険しい山に籠り^{こも}、そこで修行をして過ごす山伏の神ですから、やはり北遠に多く見られるという特徴があります。その姿は高下駄を履き、手には錫杖^{しゃくじょう}と書物^{ひげ}を持つ、髭を生やした老人として表現されることが多いようです。

市内にも役行者の石像や、行者堂、行者神社など、さまざまな形で今でも手厚く祭祀を行っているところがあります。



行者堂(鎌田)



行者堂(合代島)

申込み不要！
都合のよいお時間にお越しください

津倉家住宅見学会を開催します

掛塚湊の繁栄の歴史を今に伝える廻船問屋・津倉家は、明治時代には掛塚の中でも有数の規模を誇る豪商でした。市へ寄付され、今後も大切に残されていくことになりました。



↑主屋
(南から撮影)



開催日時・・・

平成27年 3月14日(土)・15日(日)

館内説明・・・

9:30～12:00・13:00～15:30

大黒柱に大黒様が埋め込まれていました… →



津倉家住宅のみどころは、文化財だより第117号をご覧ください。

←座敷の襖絵(福田半香画)



↑玄関と土間



↑洋間内部



磐田市掛塚 1099

コラム

「掛塚湊への郷愁はいつまでも」

佐藤 喜好

その昔、掛塚湊が繁栄したことで、その名前が知られている掛塚(現・磐田市掛塚、旧・竜洋町掛塚)。私の生まれ育った町、竜洋町を県外の方に語るのに「竜洋町」では分からなくても、「掛塚湊のあった竜洋町」というと分かる方がいて、うれしく思います。

新潟県の出雲崎には、道の駅「越後出雲崎 天領の里」があり、大きな和船が展示されています。出雲崎は、佐渡で産出された金銀の陸揚げ港で、天領の湊でした。同館の職員の方から「日本で唯一の天領の湊」と説明がありましたが、正しくは掛塚湊も天領の湊なのです。この時、我が地域の歴史について自分の知識を少しでも多くの方々に知っていただきたい、つまり掛塚湊自慢をしようと、心に決めました。あれから 年！その思いは今も変わらず、掛塚湊が存在していた当時の建物などが、一つ、また一つと消えていくのを見るたびに、掛塚湊への郷愁はますます強まるのを感じています。その一方で、津倉家が残されることになり、また掛塚地区の町めぐりの講座などに多くの皆様に参加していただけることがとてもうれしく感じる今日この頃です。



編集後記

2月の楽しみといえば節分。豆まきの豆は、大豆それとも落花生でしょうか？子供の頃は年の数だけじゃ足りない！と思った豆も、今では4●粒…大豆だと約70kcal、落花生だと約190kcal(お茶碗1杯のご飯に！?)。そろそろ満足かも…

発行：磐田市教育委員会事務局教育部文化財課
(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆市ホームページからも

WEB版文化財だよりが閲覧できます

